



〒010-0521 男鹿市船川
港南平沢字上大畑台 30
男鹿市立男鹿南中学校
TEL 0185-23-3241
FAX 0185-24-4947

第212号

「心を大事にし、優れた情緒を身に付けなさい」

～ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智先生の講演を聞いて～

校長 栗森 貢

山々の紅葉も色づき始め、秋の深まりを感じるよい季節を迎えました。台風21号の脅威もありましたが、大きな被害はありませんでした。

10月は学力向上に力を入れる時期であり、3年生は進路説明会を終え受検準備に本腰を入れるようになりました。また1,2年生は意欲的に授業に臨むとともに、家庭学習の時間を増やすように指導しています。

その合間を縫って、自然に触れる「なべっこ遠足」を何年ぶりかで行い、鶴ノ崎海岸までの片道3.6kmの道のりを歩き、縦割り班を活用して海岸のクリーンアップやきりたんぼ作りを楽しみました。全員で撮った写真は自然を満喫した喜びにあふれていました。

また、旧船川中学校出身の國學院大學ラグビー部監督の伊藤護氏(41)を招いての「第2回町の先生」では、優しく表情豊かに中学時代の思い出や日本代表に選ばれた喜びと責任の重さなど豊かな体験談を話しました。“one for all, all for one”(一人はみんなのために、みんなは一人のために)という言葉の意味を説明し、どんな場面でも生きる言葉であることを強調し、生徒にとって心に響く講演会になりました。

さて、私は10月19・20日に東京で行われた「全日本中学校長会東京大会」に出席し、貴重な経験をしました。一つは、皇太子殿下、雅子妃殿下のご臨席の式典において、殿下から「中学校教育は、社会で自立する基礎を養う時期なので、心の触れ合う体験を大事にすることを願う。」というお言葉を頂戴したことです。

二つは、一昨年度ノーベル生理学・医学賞を受賞した北里大学栄誉教授、日本学士院会員の大村智先生(82)のご講演を聴くことができたことです。大村先生のご功績は皆さんもご承知のように「イベルメクチン」という画期的な抗寄生虫薬を発見したことです。「蚊によって媒介される『フィラリア』という病気を予防するための動物用や人間用の薬を生み出した人」というと分かりやすいかもしれません。今では年に3億人の人々がこの薬のお陰で、リンパ系フィラリア症から命を救われていて、世界的に見ても偉大な発見ということでノーベル賞の受賞という栄誉に輝いたのです。

その大村先生は「私の半生を振り返って」という題で講演されたのですが、育った環境や学問にのめり込



んだきっかけ、よき師との出会い、学問を通して得た世界的に権威のある研究者との出会いと共同研究、教え子や後輩を大事に育てるその生き方など、その偉大な業績は、大村先生の地道で謙虚で探究心旺盛な研究者魂、何より人としての魅力に裏打ちされた長い日数をかけて生まれるべくして生まれた偉大な功績であると感じました。以下に印象に残った言葉や引用した格言などを記します。

- 「子どもをなるべく自然のまま育て、過保護にしないことで、秩序の感覚、味の感覚、自然の美しさの感覚などを鍛えるべきである。」(ロックの子どもの教育論)
- 「優れた情緒を身に付けることが人間の基本だ。」
- 「子どもの時に肉体的に辛い経験を与えないと、大人になって人間的に不幸だ。」(コンラッド・ローレンツ)
- 「正師を得れば、学ばざるに如かず」(道元禅師)
→「正しい師匠(先生)のもとでなければ、学んでいないのも同然だ」
- 「微生物に学んで裏切られたことがない」
- 「実践躬行」(じっせんきゅうこう:「理論や信条を実際に行動に移していくこと」)→教え子が受賞記念にモニュメントを建立。
- 「21世紀は心を大事にしなければならない。」
- ◎「人の役に立つことをしなさい」(祖母の口癖)

11月1日は「あきた教育の日」です！



これは、平成20年9月10日に施行されたもので、「秋田の子どもの今を語り、未来を語る日」として、子どもたちを取り巻く社会や教育問題について考えようとするものです。しかし、なかなか県民への周知がなされていない状況です。家庭や地域で子どもを育てる一助となれば幸いです。